

岡山大学

埋蔵文化財調査研究センター報

第 19 号

1998年3月 発行

岡山大学

埋蔵文化財調査研究センター

〒700-8530

岡山市津島中3丁目1番1号

TEL・FAX (086) 251-7290

E-mail arcsk@cc.okayama-u.ac.jp



腕 に 技 あ り、 力 あ り

岡山大学の構内遺跡では、古代の人がのこした土器が見つかります。発掘現場からもちかえった土器は、多くの場合、泥がベットリとついて壊れており、もとの形をとどめていません。そこで発掘が終了すると、土器をていねいに水洗いして汚れを落とし、もとどおりの形に復元していくという作業がまっています。一言でいうのは簡単ですが、どの作業にもある程度の熟練された技術と手先の器用さ、また細かな仕事が多いので少しの忍耐も必要とされます。これは一つの技術職といえるでしょう。また、当センターで土器の復元をしている人たちは、他にも遺構や遺物の保存処理など腕力が必要な場でも活躍しています。

ここでは土器の復元作業などを、すごろく形式で紹介します。

サイコロとコマを
御用意ください

土器復元すごろく



スタート

発掘調査で土器が出土



洗い場です

ハケやブラシで土器の泥を丁寧に
洗い落とす: 洗浄

声 「ボロボロの土器を壊さんように、
きれいに洗うんは、見た目より
根気がいるんですよ。」

面相筆とポスターカラーで、土器一つ一つ
に出土した場所を記入: 注記



声 「ちっちゃい破片に、たくさんの文字
を美しく書くのはしんどい作業な
んで、天眼鏡のお世話にも…」

注記を書き損なう 2つもどる



余分な石膏を削り取って、表面をきれいにする: 整形

石膏を入れた部分に色をぬる
着色



声 「土器が完成した時は、苦労したぶん
うれしいもんなんよ」

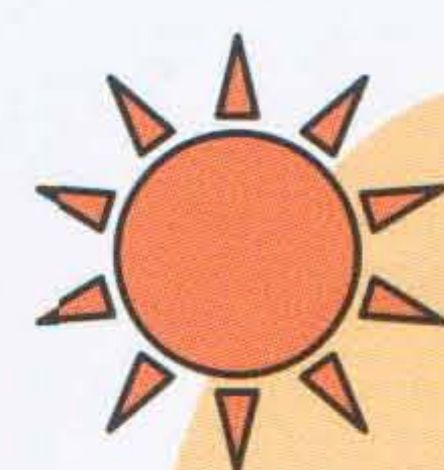


石膏入れ中に、接合した土器が
バラバラに…

4つもどる



破片のないところに石膏を流し込み、もとど
おりのかたちに: 石膏入れ



声 「小さい破片が、ひつついていって
完全な形の壺なんかになってい
くんが、楽しみなんじゃわ」
一つ進む



声 「なんぼう探しても、ぴったり合う
んがない破片もあるんよなあ」
一回休み



何百もの土器片の中から、唯一無二ピッタリ合う破片を探し、
接着剤でひっつけ元の形にしてい: 接合

今、よみがえる古代

埋蔵文化財調査研究センター10周年記念事業

当センターは、1997年11月26日に設置10周年の節目をむかえました。これに先立って、11月8日に記念講演会と遺跡見学会を催しました。

講演会

講演会は、午前10時から自然科学研究科棟の大会議室を会場に開催しました。小坂二度見学長の開会挨拶ののち、稲田孝司センター長が『縄文時代のくらしードングリ穴と落とし穴ー』、狩野久文学部教授が『「津島」の地名の由来』と題して、構内遺跡の発掘調査成果および岡山大学やその周辺地域と関わりの深い内容で講演をいただきました。参加者は100名程度で、熱心にメモをとっている人の姿もみうけられました。



講演中の狩野先生

遺跡見学会

当日は午後からは、センター報の18号でも紹介した岡山大学周辺遺跡の見学会を行いました。さわやかな秋晴れの空のもと、センターの助手の案内で、半田山の古墳と山城をめぐるコースと平地部の遺跡をめぐるコースとに分かれて散策しました。センターの展示室も、講演会・見学会の参加者に解放しました。地域の歴史を肌で感じる事ができた一時だったようです。



遺跡見学会

鹿田遺跡第7次調査開始

1998年の3月から、鹿田キャンパスで発掘調査を開始しました。場所は、基礎医学棟の南側です。4月ごろには、鎌倉時代や室町時代の建物など、人々の生活の跡が見つかるかもしれません。

発掘を見学に来てください。

表紙写真説明

センターの土器の復元作業に行っている人は、細かな作業だけをしているわけではありません。遺構の保存処理、木器処理などにも携わります。表紙の写真は、遺跡から切りとってきた炉の保存処理をしているところです。余分な土を削りこむ作業をしています。これは力作業で、翌日には腕のあたりが筋肉痛になることも…。

編集後記

当センターでは、女性たちが土器の復元作業に職人技を発揮していますが、男性が中心になってやっている所があるでしょうか。

(横田美香)